

Sonica Theater User's Guide

Version 2.0



USB

M-AUDIO JAPAN , Inc.

Macintosh Support : mac-support@m-audio.co.jp

Windows Support : win-support@m-audio.co.jp

www.m-audio.co.jp

使用許諾条件

Sonica Theater を適切にご利用頂くために、本ユーザーズガイドをお読み下さい。本製品及び本ユーザーズガイドは、株式会社エムオーディオジャパンの著作物です。従って、株式会社エムオーディオジャパンの書面による承諾がない限り、目的や形式の如何に関わらず、本書の一部、または全てを記録、複製、他の言語に翻訳することは法律で禁じられています。

株式会社エムオーディオジャパンは、信頼性・機能・デザインを改良するために、本製品及び本ユーザーズガイドを予告なしに変更する権利を保有します。

本ソフトウェアプログラムに含まれる著作権等の知的財産権は、お客様へ移転されません。従って、本ソフトウェアプログラムのソースコードについては、如何なる場合にもお客様への開示・使用許諾を致しません。また、ソースコードを解明するために本ソフトウェアプログラムを解析し、逆アセンブル・逆コンパイル、またはその他のリバースエンジニアリングを行うことを禁止します。

Sonica Theater は精密機器です。本製品の操作または使用、ソフトウェアまたは関連文書に含まれているエラーまたは障害、サービスの中断業務または予期利益の損失または中断、ソフトウェアおよび関連文書の提供、実行、使用によって生じた付随的または間接的な障害について、株式会社エムオーディオジャパンは一切責任を負わないものとします。

安全上のご注意

静電気による電子部品の破損を防ぐため、パッケージから取り出す段階から慎重に取り扱って下さい。また、Sonica Theater に触る前に必ずコンピュータのアースされた金属部分に触り、身体、衣服等に帯電した静電気を逃がすようにして下さい。この作業を怠ると、Sonica Theater にダメージを与える恐れがあります。

Sonica Theater 本体内部に取り付けられている電子部品・基板の配線パターンに無理な力を加えたり、部品を分解したりしないでください。感電、火災、故障などの原因になります。

Sonica Theater を他の機器と接続する場合は、すべての機器の電源を切ってから行って下さい。また、電源をオン・オフする場合には、必ず機器のボリュームを最小にしてから行って下さい。感電、機器の破損の原因になります。

次のような場所での使用や保存はしないで下さい。

- 温度が極端に高い場所（直射日光の当たる場所、暖房機器の近く、発熱する機器の近くなど）
- 水気の近くや湿度の高い場所・ホコリの多い場所・振動の多い場所

製品保証について

安全上のご注意に基づいて適切に使用されている場合には、本製品をお買い上げ頂いた日より一年間は保証期間となり修理は無償で行います。しかしながら不適切な使用方法による損傷や、保証書に購入店での手続きが無い場合には製品保証は無効になります。日本国内保証書は、必ずお求めになった販売店で所定の手続きを行った後、大切に保管してください。

修理に関しては、原則として日本国内保証書を同封の上、株式会社エムオーディオジャパンカスタマーサポートへの送付が前提です。送付される場合には、発送時の費用はお客様が負担、修理後の返送費用は弊社負担とさせていただきます。

送付先：

〒：460-0002

住所：愛知県名古屋市中区丸の内 2-18-10

電話：052-218-0859

社名：株式会社エムオーディオジャパン

担当部署：カスタマーサポートサービス

安全上のご注意を怠りますと、株式会社エムオーディオジャパンでの修理サービスを受けることができなくなりますので、十分にご注意下さい。

ユーザー登録について

ユーザー登録はがきに必要事項を記入して返信して頂ければ、弊社製品のユーザーとして御登録致します。尚、ユーザー登録完了の御案内は行っておりませんのでご了承下さい。また、オンラインでのユーザー登録を以下のWebサイトにて受け付けております。

<http://www.m-audio.co.jp/register/index.html>

技術的なお問い合わせについて

不明瞭な部分・疑問点などございましたら、株式会社エムオーディオジャパンカスタマーサポートサービスまでお問い合わせ頂く前に、株式会社エムオーディオジャパンWebサイトのFAQ情報、本ユーザーズガイド共ご確認下さい。

株式会社エムオーディオジャパンカスタマーサポートサービスをご利用になる場合は、お客様のお名前・製品名・製品のシリアルナンバー・コンピュータの機種名およびスペックの詳細（CPU・メモリ搭載量・接続している周辺機器など）・オペレーティングシステムのバージョン・具体的な不具合の症状を必ずご連絡下さい。また、本製品に対するサポート業務は、ユーザー登録が完了されている方でなければ一切受けられません。

コンピュータ、アプリケーションなど、株式会社エムオーディオジャパン取り扱い製品以外の操作方法に関しては一切お答えできませんので、各メーカー及び販売代理店へお問い合わせ下さるようお願い致します。

テクニカルサポート情報：

<http://www.m-audio.co.jp/support/index.html>

メールニュースのお申し込み（無料）：

<http://www.m-audio.co.jp/mail-news/index.html>

お電話によるお問い合わせ：

・052-218-0859（平日 10:00-12:00 / 13:00-17:00）

e-mailによるお問い合わせ：

Macintosh 環境での技術的なお問い合わせ先：

・mac-support@m-audio.co.jp

Windows 環境での技術的なお問い合わせ先：

・win-support@m-audio.co.jp

記載されている会社名、商品名は各社の商標または登録商標です。

2003年11月発行 第二版

User's Manual written by M-Audio U.S.

All rights reserved.

Translation into Japanese and

Japanese edition written by M-Audio Japan Inc.,2003.

All rights reserved.

M-Audio U.S.

45 East Saint Joseph Street

Arcadia, CA 91006-2861 USA

目次

Chapter 1：Sonica Theater について	6
Sonica Theater の特徴	6
Macintosh で必要な環境	6
Windows で必要な環境	7
製品パッケージ内容	7
ユーザズガイドについて	7
Sonica Theater の概要	8
Chapter 2：インストールと設定	10
Sonica Theater の設置	10
USB 1.1 の制限	10
ドライバのインストール	10
コントロールパネル・ソフトウェア	10
スピーカーとの接続について	11
基本的なスピーカーの設置	11
Sonica Theater との接続	11
ライン入力	12
サラウンドフォーマット	12
Macintosh 環境での設定	13
オーディオドライバモデル	13
SoundManager (Mac OS 9.x)	13
ASIO 1/2 (Mac OS 9.x)	14
CoreAudio (Mac OS X)	14
Windows 環境での設定	15
オーディオドライバモデル	15
MME/WDM (Windows)	15
ASIO 1/2 (Windows)	15
ソフトウェアでの使用	15
DVD ソフトウェア	15
ステレオ	15
デジタル	16
5.1 または 6.1	16
Mac OS での DVD ソフトウェア	17
音楽の再生	17
Windows Media Player 9	17
レコーディング (録音)	18

Chapter 3 : コントロールパネル・ソフトウェア	19
はじめに	19
コントロールパネル・ソフトウェアの起動方法	19
コントロールパネル・ソフトウェア	19
Speaker Setup	20
Output Mixer	21
Surround Sound	21
Input/Other	22
About	23
Chapter 4 : FAQ	24
Macintosh	24
Windows	25
Technical Specs	27

Chapter 1: Sonica Theater について

Sonica Theater (ソニカシアター) は、ダイナミックレンジ 106dB を実現した 24Bit 96kHz Codec を採用した次世代の 7.1ch サラウンドシステムです。

ポピュラーなサラウンドフォーマット (Dolby Digital®・DTS®) のエンコードデータのデジタル出力や、DVD ソフトウェアでのデコードにより最大 7.1ch アナログ出力にも対応することで、本格的なホームシアターシステムのハブとしてご利用頂けます。また、102dB を実現した 24Bit 96kHz ADC までも採用することで、マルチメディア用途以外にも高品位なレコーディング環境までも提供します。

Sonica Theater の特徴

- 高品位な 24Bit 96kHz プレイバック/レコーディング
- 1/8 ステレオミニアナログ (ライン) 出力 4 系統
- 1/8 ステレオミニアナログ (ライン) 入力 1 系統
- デジタル (S/PDIF フォーマット) 出力 1 系統
- Dolby Digital®・Dolby Pro Logic®・DTS® と、その他のマルチチャンネルフォーマットに対応
- SRS TruSurround XT™・SRS Circle Surround II™ テクノロジーを装備
- コントロールパネル・ソフトウェア装備
- CoreAudio・SoundManager・ASIO 1/2 ドライバ装備 (Macintosh)
- MME・WDM・ASIO 1/2 ドライバ装備 (Windows)
- Dolby Digital®/DTS® エンコードデータを外部デコーダへのデジタル送信 (パススルー) サポート (アプリケーションの対応状況に依存)

- 対応解像度: 16・24-bit
- 対応サンプリングレート: 11.025kHz・22.050kHz・32kHz・44.1kHz・48kHz・88.2kHz・96kHz
- USB バスパワー (外部電源不要) に対応
- USB 1.1 (USB 2.0 互換) に対応
- 1 年間の製品保証

Macintosh で必要な環境

Macintosh では、以下の環境が必要です:

- PowerPC G3 233MHz 以上を搭載した Power Macintosh (PowerPC G4 500MHz 以上推奨)
- 64MB 以上の RAM (128MB 以上推奨)
- Mac OS 9.x 以降または Mac OS X 10.1.5 以降
- 標準装備された USB 1.1 ポート (拡張カード等は非対応)
- CD-ROM ドライブ

Windows で必要な環境

Windows では、以下の環境が必要です：

- Pentium MMX 200MHz 以上のプロセッサ（Pentium III 700MHz 以上推奨）
- 64MB 以上の RAM（128MB 以上推奨）
- Windows ME, 2000/XP
- 標準装備された動作確認済みの USB 1.1 ポート（拡張カード等は非対応）
- CD-ROM ドライブ

製品パッケージ内容

Sonica Theater パッケージには、以下の製品が同梱されています。

- Sonica Theater
- USB ケーブル（1m）
- PDF ユーザーズガイド（本書）
- 日本国内製品保証 / ユーザー登録書
- ドライブ CD-ROM

万が一不足している製品がございましたら、弊社カスタマーサポートまたはお買い求め頂いたディーラーへお問い合わせ下さい。

ユーザーズガイドについて

ユーザーズガイドは、読者が以下を含むコンピュータの標準的な操作方法を身に付けていることを前提として書かれています。

- コンピュータの起動、及び使用
- メニューからコマンドを選択
- マウスを利用したクリック、選択、ドラッグ
- ファイルの呼び出し、コピー、保存、削除
- ウィンドウの呼び出し、終了、スクロール、移動、選択

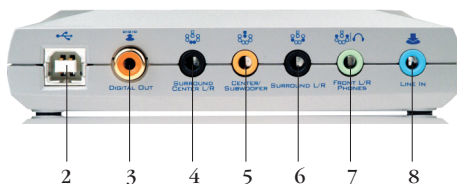
これらの操作方法が分からない場合にはコンピュータのユーザーズガイドをお読みになり、操作方法を理解した上で先にお進み下さい。

Sonica Theater の概要



1. Power LED

この Power LED は、Sonica Theater に電源供給されている場合に点灯します。



2. USB コネクタ

このコネクタとコンピュータの USB ポートを付属の USB ケーブルで接続します。

- コンピュータ本体の USB ポート数の関係で USB HUB を使用しなければならない場合には、Sonica Theater 以外の周辺機器を USB HUB へ接続し、Sonica Theater はコンピュータ本体に接続して下さい。また、USB ケーブルは、最長でも 5m 以内の製品をご利用下さい。

3. デジタル (S/PDIF) 出力

このコネクタは、様々なデジタル機器 (DAT・デジタルミキサー等) へデジタルシグナル (S/PDIF) を出力します。Sonica Theater のデジタル出力は、民生用機器

でポピュラーな S/PDIF (Sony / Philips Digital Interface) フォーマットに対応しています。また、ヘッダー内のオーディオビットは「Non - Audio」に設定でき、一般的に Dolby Digital AC - 3/DTS エンコードデータを外側デコーダへデジタル送信 (パススルー) することも可能です。

- シグナルレベルは最大 1V 程度・インピーダンスは 75 Ω の高品位なデジタルオーディオ用シールドケーブルをご利用頂くことをお奨めします。
- Dolby Digital®/DTS® エンコードデータを外側デコーダへデジタル送信 (パススルー) するには、アプリケーションの対応状況に依存します。

4. Surround Center L/R アナログ出力 (ブラック)

この 1/8 アナログライン出力コネクタは、オーディオアプリケーションの 7/8ch Out からのシグナルが出力されます。サラウンドでは、“左チャンネルがサラウンドセンター左チャンネル”・“右チャンネルがサラウンドセンター右チャンネル”に相当します。

5. Center/Subwoofer アナログ出力 (オレンジ)

この 1/8 アナログライン出力コネクタは、オーディオアプリケーションの 3/4ch Out からのシグナルが出力されます。サラウンドでは、“左チャンネルがセンター”・“右チャンネルがウーファー”に相当します。

6. Surround L/R アナログ出力 (ブラック)

この 1/8 アナログライン出力コネクタは、オーディオアプリケーションの 5/6ch Out からのシグナルが出力されます。サラウンドでは、“左チャンネルがサラウンド左チャンネル”・“右チャンネルがサラウンド右チャンネル”に相当します。

7. Front L/R Phones アナログ出力 (グリーン)

この 1/8 アナログライン出力コネクタは、オーディオアプリケーションの 1/2ch Out からのシグナルが出力されます。サラウンドでは、フロントの L/R に相当します。

また、このコネクタには、ヘッドフォンを接続することも可能です。

8. アナログライン入力 (1/8 ミニコネクタ/ブルー)

この 1/8 アナログライン入力コネクタは、オーディオアプリケーションでレコーディングするアナログライン機器 (シンセサイザー・ミキサー等) を接続することができます。

- マイクロフォンやエレクトリックギターなどから出力されるシグナルレベルは小さいため、一般的にマイクレベルと呼ばれます。この場合には、M-AUDIO DMP3 などのプリアンプで増幅させてから接続する必要があります。

Chapter 2: インストールと設定

Sonica Theater の設置

Sonica Theater を使用するには、まずコンピュータの USB コネクタと接続します。

※ Sonica Theater をコンピュータと接続する前に、ドライバを先にインストールする必要がある場合があります。詳しくは、別紙インストールガイドを参照して下さい。

1. Sonica Theater に付属している USB ケーブルの六角コネクタの方を Sonica Theater へ接続します。
2. Sonica Theater に付属している USB ケーブルの四角コネクタの方をコンピュータの USB コネクタへ接続します。

USB1.1 の制限



Sonica Theater は、USB1.1 の規格上同時に使用できる入出力数とサンプリングレート・解像度に制限があります。以下の一覧を参考にして使用する入出力チャンネルを設定して下さい。

※ Sonica Theater は、USB 1.1 に対応した機器です。USB 1.1 のバンド幅は、送受信合わせて “16Bit 48kHz の場合 8 チャンネル” が上限になります。従って、“24Bit 48kHz の場合 6 チャンネル”・“24Bit 96kHz の場合 2 チャンネル” が上限になります。また、Sonica Theater は USB 1.1 に対応した機器ですので、USB 2.0 に対応したコンピュータで使用しても制限は変わりません。

- 8 出力：16Bit 48kHz までサポート (8ch)
- 6 出力：24Bit 48kHz までサポート (6ch)

- 4 出力：24Bit 48kHz までサポート (4ch)
- 2 出力：24Bit 96kHz までサポート (2ch)
- 2 入力 6 出力：16Bit 48kHz までサポート (8ch)
- 2 入力 4 出力：24Bit 48kHz までサポート (6ch)
- 2 入力 2 出力：24Bit 48kHz までサポート (4ch)
- 2 入力：24Bit 96kHz までサポート (2ch)

ドライバのインストール

Sonica Theater を使用するには、“デバイスドライバ” と呼ばれるソフトウェアをコンピュータへインストール (コンピュータへソフトウェアを組み込む) する必要があります。ドライバのインストール方法は、ご利用になっているオペレーティングシステムに合わせた、別紙インストールガイドを参照して下さい。

コントロールパネル・ソフトウェア

デバイスドライバには、Sonica Theater をコントロールするためのコントロールパネル・ソフトウェアが含まれます。

コントロールパネル・ソフトウェアは、Sonica Theater ←→デバイスドライバ←→コントロールパネル・ソフトウェア←→オーディオアプリケーションまでの情報の流れの中で、Sonica Theater を使用する上での重要な設定を行います。コントロールパネル・ソフトウェアを把握することで Sonica Theater に装備された機能全てを効率的に使用できます。

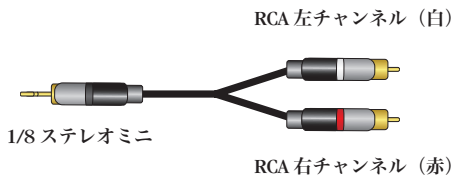
コントロールパネル・ソフトウェアの詳細は、Chapter 3: コントロールパネル・ソフトウェアを参照して下さい。

スピーカーとの接続について

Sonica Theater では、マルチチャンネル出力を小スペースで提供するため、アンプ内蔵のマルチメディアスピーカーやミキサーなどと接続することができる4系統の1/8 ステレオ出力コネクタが備えられています。

1/8 ステレオ出力コネクタは、1系統で2つのシグナル（ステレオまたはモノラル 2ch）を出力できるように統合されています。例えば、Center/Subwoofer 出力からは、サラウンドフォーマットの場合“センター”・“ウーファー”が出力されます。

一般的に、アンプを内蔵したマルチメディアスピーカーには、1/8 ステレオ入力コネクタが備わっていますが、RCA タイプの入力コネクタしか備っていない場合には、以下のようなケーブルを別途購入する必要があります。

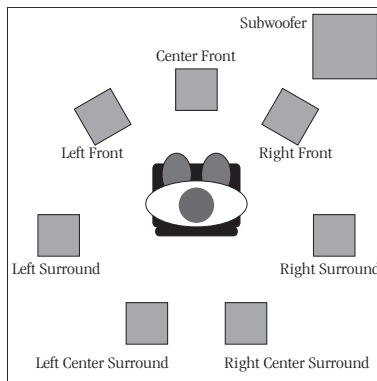


一般的に RCA コネクタは、白色のコネクタが“左”または“奇数のチャンネル”に該当し、赤色のコネクタは“右”または“偶数のチャンネル”に該当します。例えば、Center/Subwoofer 出力からは、サラウンドフォーマットの場合“センター”は左チャンネル（白色のコネクタ）から、“ウーファー”は右チャンネル（赤色のコネクタ）から出力されます。

Sonica Theater では、1/8 ステレオ出力コネクタからラインレベルのシグナルを出力します。従って、アンプを備えていないマルチメディアスピーカー（パッシブ）と接続することはできません。この場合には、パワーアンプと Sonica Theater を接続し、パワーアンプとアンプを備えていないマルチメディアスピーカー（パッシブ）を接続する必要があります。

基本的なスピーカーの設置

Sonica Theater を使用して 7.1 サラウンドシステムを構築するには、以下のようなスピーカーの設置が一般的です。



Sonica Theater との接続

Sonica Theater とスピーカーを接続するには、以下の様に接続します。

1. Front L/R Phones コネクタと、“Left Front” “Right Front” を接続します。
2. Center/Subwoofer コネクタと、“Center Front” “Subwoofer” を接続します。
3. Surround L/R コネクタと、“Left Surround” “Right Surround” を接続します。
4. Surround Center L/R コネクタと、“Left Center Surround” “Right Center Surround” を接続します。

※ CRT ディスプレイを使用している場合には、スピーカーが防磁気されているか確認して下さい。ディスプレイが滲んだり変色する場合には、スピーカーをディスプレイから離して下さい。

ライン入力

Sonica Theater は、ステレオライン（左/右）入力を備えています。ライン入力は、オーディオアプリケーションで最大 24Bit 96kHz までの解像度/周波数でレコーディング（録音）することができます。

ライン入力は、オーディオアプリケーションでレコーディングするアナログライン機器（シンセサイザー等）を接続することができます。ライン入力の音量は、Sonica Theater のコントロールパネル・ソフトウェアでコントロールすることも可能です。

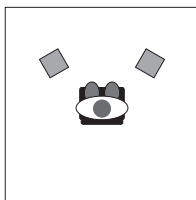
※ Sonica Theater はアナログ 2 チャンネル入力仕様です。

サラウンドフォーマット

DVD では、2.0・4.1・5.1・6.1・7.1 など様々なサラウンドフォーマットが採用されています。ここでは、サラウンドフォーマットの簡単な説明を致します。

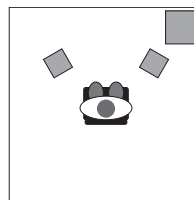
2.0

2.0 チャンネルは、ステレオのサウンドトラックです。Sonica Theater では、サラウンドデコーダーを持っていない場合でも Dolby Pro Logic® や SRS Circle Surround II™ テクノロジーを装備することで、最大 7.1 チャンネルまでのサラウンド再生が可能です。



2.1

2.1 チャンネルは、サブウーファーを含むステレオのサウンドトラックです。Sonica Theater では、サラウンドデコーダーを持っていない場合でも Dolby Pro Logic® や SRS Circle Surround II™ テクノロジーを搭載することで、最大 7.1 チャンネルまでのサラウンド再生が可能です。

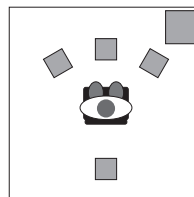


4.0

4.0 チャンネルは、サブウーファーを含まないサラウンドフォーマットで、4.1 チャンネル（下記参照）と同様のサラウンドフォーマットです。

4.1

4.1 チャンネルは、1970 年から 1980 年にかけて映画制作に採用されたサラウンドフォーマットです。モノラル信号の 4 チャンネルと低音効果用のみの補助チャンネル（情報に必要とされるビット数が少ないため、.1 チャンネルと呼ばれる）を含むサラウンド再生が可能です。

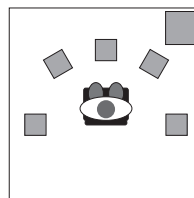


5.0

5.0 チャンネルは、サブウーファーを含まないサラウンドフォーマットで、5.1 チャンネル（下記参照）と同様のサラウンドフォーマットです。

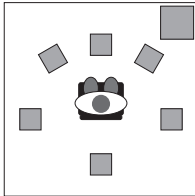
5.1

5.1 チャンネルは、現在最も普及しているサラウンドフォーマット（Dolby Digital® や DTS® 等）です。このフォーマットは、レフト・センター・ライト及び 2 つのリアサラウンドによってサラウンド再生が可能です。



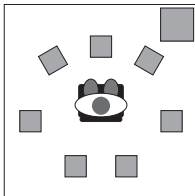
6.1

6.1チャンネルは、レフト・センター・ライト・センターサラウンド及び2つのリアサラウンドによってサラウンド再生が可能です。6.1チャンネルサラウンドフォーマットは、Dolby Digital EX® やDTS ES® に採用されています。



7.1

7.1チャンネルは、6.1チャンネルを更に拡張したサラウンドフォーマットで、センターサラウンドが2チャンネルになり、優れた拡散を提供するサラウンド再生が可能です。



Macintosh 環境での設定

このセクションでは、Sonica Theater を Mac OS 9.x で使用する前の各セットアップ方法について解説します。

オーディオドライバモデル

Sonica Theater のドライバでは、オーディオドライバモデルに SoundManager ドライバ・ASIO 1/2 ドライバ・CoreAudio ドライバが用意されています。

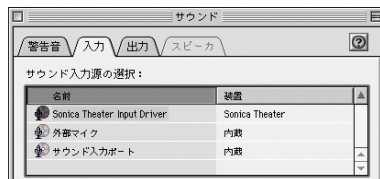
サポートされるオーディオドライバや仕様は、随時変更される可能性があります。最新の情報は、エムオーディオジャパン Web サイトで得られます。

SoundManager (Mac OS 9.x)

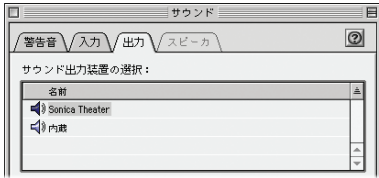
SoundManager ドライバでは、本来 Macintosh 本体から出力されているサウンド (システムサウンド等) や、SoundManager 対応アプリケーションのサウンド入出力を Sonica Theater で行うことができます。SoundManager ドライバは、Sonica Theater の 2ch (ステレオ) の出力しか同時に使用できない制限があります。また、Mac OS 9.x の制限でサンプリングレートは最高で 44.1kHz までしか使用できません。

※以下は、オーディオ入出力ポートを直接選択する機能を備えていないアプリケーション (iTunes や Apple DVD Player) で Sonica Theater を使用する設定方法です。オーディオ入出力ポートを直接選択する機能を備えているアプリケーションの場合には、アプリケーションのユーザズガイドを参照して、Sonica Theater の入出力ポートを選択して下さい。

1. 入力機器として使用するには、Apple メニュー > コントロールパネル > “サウンド” を選びます。
2. サウンドコントロールパネルの“入力”タブを選び、“サウンド入力源の選択”にて、Sonica Theater を選びます。



1. 出力機器として使用するには、Apple メニュー > コントロールパネル > “サウンド” を選びます。
2. サウンドコントロールパネルの“出力”タブを選び、“サウンド出力装置の選択”にて、Sonica Theater を選びます。

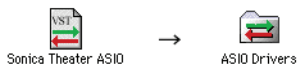


※出力ポートの選択（アナログまたはデジタル）には、コントロールパネル・ソフトウェアで切替を行います。

ASIO 1/2 (Mac OS 9.x)

ASIO 1/2 (Audio Stream Input Output) は、Cubase VST とオーディオハードウェアとの間の汎用オーディオインタフェース（コネクタ）として Steinberg 社が開発したテクノロジーで、Macintosh & Windows 環境で幅広くサポートされており低レイテンシーが特徴です。

Mac OS 9.x の ASIO 対応アプリケーションには、ASIO ドライバをインストールする“ASIO Drivers”フォルダが用意されています。ASIO ドライバでは、Logic Audio・Nuendo・CUBASE VST・Digital Performer 等の ASIO 対応アプリケーションで Sonica Theater の殆どの性能を発揮することが可能になります。Sonica Theater ASIO ドライバを“ASIO Drivers”フォルダへコピーします。



1. Mac OS 9.x の ASIO ドライバのインストール後、オーディオアプリケーションのオーディオ設定にて“Sonica Theater ASIO”を選びます。

※ ASIO に対応したオーディオアプリケーションの“ASIO Drivers”フォルダへは、一つの ASIO ドライバのみをインストールして下さい。複数の ASIO ドライバを“ASIO Drivers”フォルダへインストールすると誤認識や不具合の要因になります。尚、ASIO ドライバでは、デジタル出力は使用できません。

CoreAudio (Mac OS X)

Sonica Theater の Mac OS X ドライバでは、オーディオドライバモデルに CoreAudio ドライバが用意されています。CoreAudio では、24Bit 96kHz 高精度オーディオ（32Bit フローティング）・完全なマルチクライアント・マルチチャンネル・ローレイテンシーパフォーマンスまでもサポートしています。CoreAudio ドライバでは、CoreAudio 対応アプリケーションのサウンド入出力を Sonica Theater で行うことができます。

※以下は、オーディオ入出力ポートを直接選択する機能を備えていないアプリケーション（iTunes や Apple DVD Player）で Sonica Theater を使用する設定方法です。オーディオ入出力ポートを直接選択する機能を備えているアプリケーションの場合には、アプリケーションのユーザーズガイドを参照して、Sonica Theater の入出力ポートを選択して下さい。

1. 入力機器として使用するには、システム環境設定 > “サウンド” を選びます。
2. サウンドコントロールパネルの“入力”タブを選び、“サウンドを入力する装置の選択”にて、Sonica Theater を選びます。



1. 出力機器として使用するには、システム環境設定 > “サウンド” を選びます。
2. サウンドコントロールパネルの“出力”タブを選び、“サウンドを出力する装置の選択”にて、Sonica Theater を選びます。



Windows 環境での設定

このセクションでは、Sonica Theater を Windows で使用する前の各セットアップ方法について解説します。

オーディオドライバモデル

Sonica Theater のドライバでは、オーディオドライバモデルに MME/WDM・ASIO ドライバが用意されています。サポートされるオーディオドライバや仕様は、随時変更される可能性があります。最新の情報は、エムオーディオジャパン Web サイトで得られます。

MME/WDM (Windows)

MME/WDM ドライバでは、Windows 本体から出力されているサウンド（システムサウンド等）や、MME/WDM 対応アプリケーションのサウンド入出力を MME/WDM を経由して Sonica Theater で行うことができます。

※以下は、オーディオ入出力ポートを直接選択する機能を備えていないアプリケーション（Windows Media Player 等）で Sonica Theater を使用する設定方法です。オーディオ入出力ポートを直接選択する機能を備えているアプリケーションの場合には、アプリケーションのユーザーズガイドを参照して、Sonica Theater の入出力ポートを選択して下さい。

1. マイコンピュータ > コントロールパネル > “マルチメディア” または “サウンドとマルチメディア” を W クリックします。
2. オーディオタブをセレクトし、“再生 / 録音” にて、M-Audio Sonica Theater を選びます。



※出力ポートの選択（アナログまたはデジタル）には、コントロールパネル・ソフトウェアで切替を行います。

ASIO 1/2 (Windows)

ASIO 1/2 (Audio Stream Input Output) は、Cubase VST とオーディオハードウェアとの間の汎用オーディオインタフェース（コネクタ）として Steinberg 社が開発したテクノロジーで、Macintosh & Windows 環境で幅広くサポートされており低レイテンシーが特徴です。

1. オーディオアプリケーションのオーディオ設定にて “Sonica Theater ASIO” を選びます。

※オーディオアプリケーションによっては、複数のオーディオドライバが使用できる場合があります。この場合には、アプリケーションのユーザーズガイドを参照して、最適なオーディオドライバで Sonica Theater を使用して下さい。また、ASIO ドライバでは、デジタル出力は使用できません。

ソフトウェアでの使用

このセクションでは、Sonica Theater をソフトウェアで使用方法について解説します。

DVD ソフトウェア

Sonica Theater は、様々な DVD ソフトウェアに対応しています。また、Inter Video 社の WinDVD 4 (Windows のみ) が無償でバンドルされています。

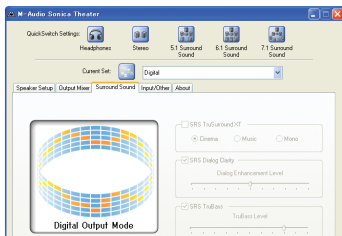
ステレオ

DVD でのステレオフォーマットは、24Bit Linear PCM・16Bit Linear PCM などが一般的です。Sonica Theater では、通常のステレオ再生以外に SRS TruSurround XT™ を使用して臨場感溢れるサウンドを再生したり、SRS Circle Surround II™ を使用してステレオソースをマルチチャンネルのスピーカーシステムで再生することも可能です。ご使用になっているスピーカーシステムを、コントロールパネル・ソフトウェアの “Current Set” プルダウンメニューから選択して下さい。

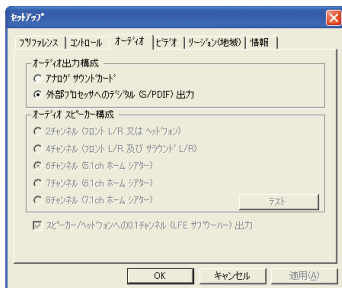
デジタル

Sonica Theater のデジタル出力は、民生用機器で一般的な S/PDIF(Sony / Philips Digital Interface) フォーマット以外にも、ヘッダー内のオーディオビットは「Non-Audio」に設定でき、Dolby Digital® または DTS® エンコードデータを外外部デコーダへデジタル送信 (パススルー) することが可能です。以下に、WinDVD 4 でエンコードデータを外外部デコーダへデジタル送信するための設定方法を解説致します。

1. マイコンピュータ > コントロールパネル > “マルチメディア” または “サウンドとマルチメディア” をクリックします。
2. オーディオタブをセレクトし、“再生 / 録音” にて、M-Audio Sonica Theater を選びます。
3. コントロールパネル・ソフトウェアの “Current Set” にて “Digital” を選びます。



4. WinDVD 4 の “セットアップ” にて “外部プロセッサへのデジタル (S/PDIF) 出力” を選びます。

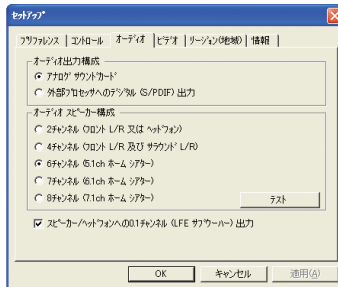


※ Dolby Digital AC - 3/DTS エンコードデータを外外部デコーダへデジタル送信 (パススルー) するには、ソフトウェアの対応状況に依存します。また、WinDVD 4 以外のソフトウェアでも同様な設定を行います。

5.1 または 6.1

WinDVD 4 のように Dolby Digital® または DTS® エンコードデータがソフトウェアによってデコードできる場合には、Sonica Theater からマルチチャンネルのスピーカーシステムで 5.1 や 6.1 チャンネルサラウンド再生が可能です。以下に、WinDVD 4 での設定方法を解説致します。

1. コントロールパネル・ソフトウェアの “Current Set” で 5.1 チャンネル以上のスピーカーシステムを選択します。
2. マイコンピュータ > コントロールパネル > “マルチメディア” または “サウンドとマルチメディア” をクリックします。
3. オーディオタブをセレクトし、“再生 / 録音” にて、M-Audio Sonica Theater を選びます。
4. “音量” タブ > スピーカーの設定 > “スピーカーの種類” にて、“5.1 サラウンドサウンドスピーカー” を選びます。
5. コントロールパネル・ソフトウェアの “Current Set” にて “5.1 チャンネル以上のスピーカーシステム” を選びます。
6. WinDVD 4 の “セットアップ” にて “アナログサウンドカード” を選択後に、“オーディオスピーカー構成” でスピーカーシステムのチャンネルを選びます。



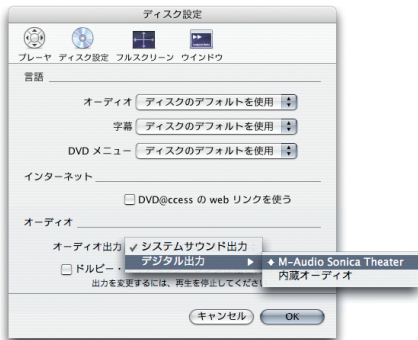
Mac OS での DVD ソフトウェア



DVD プレーヤ

Mac OS X 10.3 環境では、Sonica Theater のデジタル出力は、民生用機器で一般的な S/PDIF (Sony / Philips Digital Interface) フォーマット以外にも、ヘッドアース内のオーディオビットは「Non-Audio」に設定でき、Dolby Digital® または DTS® エンコードデータを外外部デコーダへデジタル送信 (パススルー) することが可能です。以下に、Apple DVD プレーヤでエンコードデータを外部デコーダへデジタル送信するための設定方法を解説致します。

1. コントロールパネル・ソフトウェアの“Current Set”にて“Digital”を選びます
2. Apple DVD プレーヤ 4.0 > 環境設定... > “ディスク設定”タブをクリックします。
3. “オーディオ出力”にて、デジタル出力 -M-Audio Sonica Theater を選びます。



2003 年 11 月現在、Mac OS 9 では Dolby Digital AC-3/DTS エンコードデータのパススルー/ソフトウェアデコードはサポートされていません。最新の情報は、M-AUDIO JAPAN Web サイトにて得ることができます。

<http://www.m-audio.co.jp>

音楽の再生

Sonica Theater では、MP3・CD・インターネットラジオなどのステレオ音楽を、SRS TruSurround XT™を使用することで2スピーカーシステムでも臨場感溢れるサウンドを再生することが可能です。

また、2スピーカーシステム以上 (2.1~7.1) をお持ちの場合には、SRS Circle Surround II™を使用することでステレオソースをマルチチャンネルのスピーカーシステムで再生することも可能です。SRS TruSurround XT™や SRS Circle Surround II™を使用するには、以下のように設定します。

1. コントロールパネル・ソフトウェアの“Current Set”で使用しているスピーカーシステムを選択します。
2. コントロールパネル・ソフトウェアの“Surround Sound”にて SRS TruSurround XT または SRS Circle Surround II を選択します。



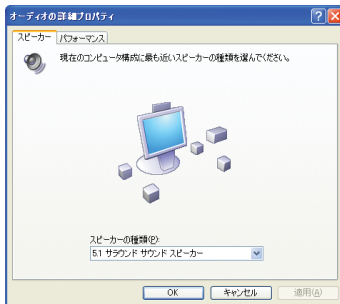
※コントロールパネル・ソフトウェアおよび SRS テクノロジーに関しては、Chapter 3: コントロールパネル・ソフトウェアを参照して下さい。

Windows Media Player 9

Sonica Theater は、Windows Media Player 9 に対応しています。Windows Media Player 9 は、24Bit 96kHz のオーディオを 5.1 チャンネルのオーディオで 128Kbps までサポートしています。Sonica Theater を Windows Media Player 9 の 5.1 チャンネルで使用するには、以下のように設定します。

1. コントロールパネル・ソフトウェアの“Current Set”で 5.1 チャンネル以上のスピーカーシステムを選択します。

2. マイコンピュータ > コントロールパネル > “マルチメディア” または “サウンドとマルチメディア” をクリックします。
3. オーディオタブをセレクトし、“再生 / 録音” にて、M-Audio Sonica Theater を選びます。
4. “音量” タブ > スピーカーの設定 > “スピーカーの種類” にて、“5.1 サラウンドサウンドスピーカー” を選びます。



※ Windows Media Player 9 のデコードによるアナログマルチチャンネル出力を使用する場合には、SRS TruSurround XT または SRS Circle Surround II 機能を無効にしてください。

レコーディング（録音）

Sonica Theater は、ステレオライン（左 / 右）入力を備えています。ライン入力は、オーディオアプリケーションで最大 24Bit 96kHz までの解像度 / 周波数でレコーディング（録音）することができます。

ライン入力は、オーディオアプリケーションでレコーディングするアナログライン機器（シンセサイザー等）を接続することができます。ライン入力の音量は、Sonica Theater のコントロールパネル・ソフトウェアで設定することも可能です。

1. レコーディングするソフトウェアのオーディオ設定で、Sonica Theater を選択します。

※コントロールパネル・ソフトウェアに関しては、Chapter 3：コントロールパネル・ソフトウェアを参照して下さい。

Chapter 3:

コントロールパネル・ソフトウェア

はじめに

デバイスドライバには、Sonica Theaterをコントロールするためのコントロールパネル・ソフトウェアが含まれます。

コントロールパネル・ソフトウェアは、Sonica Theater ↔ デバイスドライバ ↔ コントロールパネル・ソフトウェア ↔ オーディオアプリケーションまでの情報の流れの中で、Sonica Theaterを使用する上での重要な設定を行います。コントロールパネル・ソフトウェアを把握することでSonica Theaterに装備された機能全てを効率的に使用できます。

コントロールパネル・ソフトウェアの起動方法


Mac OS 9.xでの起動方法：

インストールガイドに従ってドライバをインストールし、OSを再起動して下さい。アップルメニュー > コントロールパネル > “M-Audio Sonica Theater Settings” を選択して起動して下さい。

Mac OS Xでの起動方法：

インストールガイドに従ってドライバをインストールし、OSを再起動して下さい。アプリケーション > “M-Audio Sonica Theater” をWクリックして起動して下さい。

Windowsでの起動方法：

インストールガイドに従ってドライバをインストールし、OSを再起動して下さい。タスクトレイにインストールされている  アイコンをWクリック、またはコント

ロールパネル > “M-Audio Sonica Theater” をWクリックして起動して下さい。

コントロールパネル・ソフトウェア

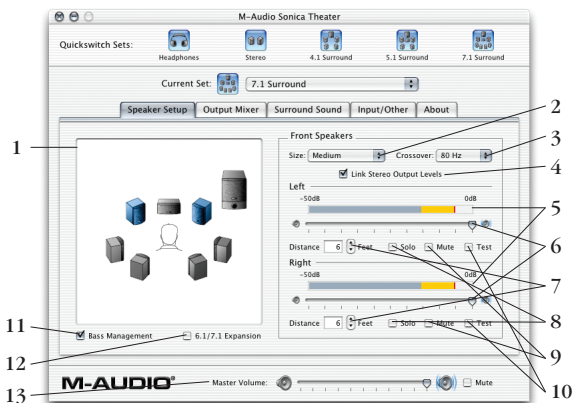
コントロールパネル・ソフトウェアの上部には、スピーカーシステムのランチャー（Quickswitch）と、現在有効になっているスピーカーシステム（Current Set）が表示されます。



1. **Quickswitch Set** : Quickswitch Set には、スピーカーシステムの設定をボタン（ランチャー）として登録することができます。登録するには、Current Set アイコンを任意の場所へドラッグします。
2. **Current Set** : Current Set プルダウンメニューは、Sonica Theater に接続されているスピーカーシステムに合わせた項目を選びます。ここで選択されたスピーカーシステムが Sonica Theater を使用するソフトウェアに反映されます。メニューには、ヘッドフォンや 2.0～7.1 スピーカーシステムと、クリエイティブ社やロジテック社などのスピーカーシステムのプリセットが登録されています。使用しているスピーカーシステムがメニューに含まれていれば、自動的に最適なスピーカーの設定が行われます。メニューに含まれていない場合には、“Speaker Setup” で設定を行います。

Speaker Setup

コントロールパネル・ソフトウェアを起動するとはじめに表示されるのが Speaker Setup です。Speaker Setup は、Sonica Theater と接続されているスピーカーシステムの設定を行います。

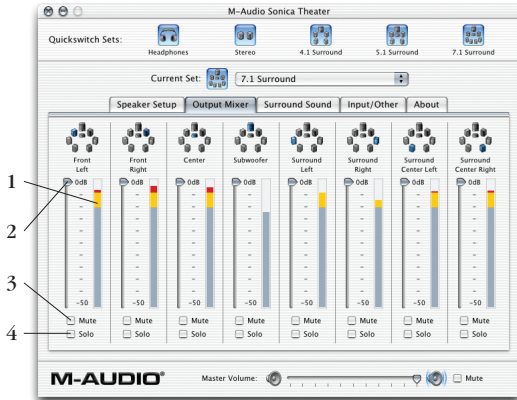


Control Panel for Mac OS X (OS によっては表示される名称/仕様が異なる場合があります。)

1. GUI : Current Set で選択されているスピーカーシステムを GUI で表示します。スピーカーのサイズを変更すると GUI もアップデートされます。
 2. Size: GUI で選択されているスピーカーのサイズ (Small ~ Large ・ Flat Panel ・ Cube) を選択します。
 3. Crossover : GUI で選択されているスピーカーのクロスオーバーフリクエンシーを “Off” または “40Hz ~ 120Hz” までコントロールすることが可能です。
 4. Link Stereo Output levels : チェックを入れることにより、GUI で選択されているスピーカーの “Level Fader” をペアにして片方のハンドルをスライドさせると 2 チャンネルとも同時にコントロールすることが可能になります。
 5. Peak Meters : View で選択されているスピーカーへの出力レベルを “フルスケール (0dB) に対しての dB” 表示します。メーターは 3 セクションに分かれており、-3dB ~ 0dB (赤色) ではクリップが発生する可能性がありますので注意が必要です。
 6. Level Fader : フェーダーをドラッグして GUI で選択されているスピーカーへの出力レベルのコントロールを行います。
 7. Distance : GUI で選択されているスピーカーのリスニングポイントからの距離 (0 ~ 30 フィート : 1 フィート = 30cm) を設定します。
 8. Solo : チェックを入れることにより、GUI で選択されているスピーカーへのみサウンドを出力します。
 9. Mute : チェックを入れることにより、GUI で選択されているスピーカーへのみサウンドを消音します。
 10. Test : チェックを入れることにより、GUI で選択されているスピーカーへテストトーンが出力されます。テストトーンを目安にスピーカの設置を行うと効果的です。
- ※ Windows 環境でテストトーンを出力するには、Direct X 8.1 以降が必要です。
11. Bass Management : スピーカーシステムにサブウーファーがある場合には、チェックを入れることにより更なる低音のコントロール (-12dB ~ +12dB までのブースト・フェイズ等) が可能です。
 12. 6.1/7.1 Expansion : Dolby Digital EX® と DTS ES® フォーマットを再生する場合にチェックを入れます。
 13. Master Volume : フェーダーをドラッグして Sonica Theater 全体の出力レベルをコントロールします。また、“Mute” にチェックを入れると全てのサウンドを消音します。

Output Mixer

Output Mixer は、“Current Set” で選ばれているスピーカーシステムと同じチャンネル数が表示され、Sonica Theater の各チャンネルの出力レベルをコントロールすることが可能です。



Control Panel for Mac OS X (OS によっては表示される名称/仕様が異なる場合があります。)

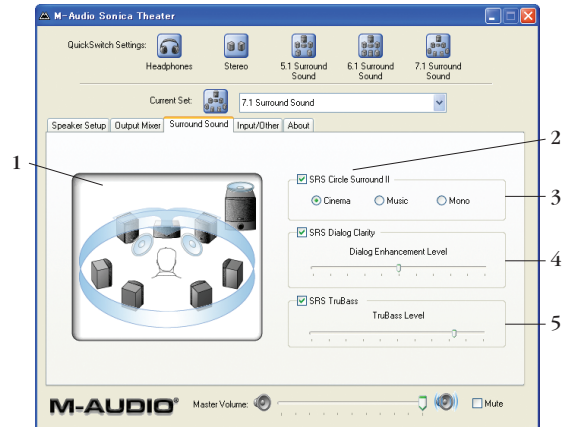
1. **Peak Meters** : GUI で選択されているスピーカーへの出力レベルを“フルスケール (0dB) に対しての dB”表示します。メーターは3セクションに分かれており、-3dB ~ 0dB (赤色) ではクリップが発生する可能性がありますので注意が必要です。
2. **Level Fader** : フェーダーをドラッグしてスピーカーへの出力レベルのコントロールを行います。
3. **Solo** : チェックを入れることにより、このチャンネルのみサウンドを出力します。
4. **Mute** : チェックを入れることにより、このチャンネルのみサウンドを消音します。

Surround Sound

Surround Sound は、Sonica Theater のサラウンド機能をコントロールします。サラウンド機能には、SRS TruSurround XT™ /SRS Circle Surround II™ /SRS Dialog Enhancement™ /SRS TruBass® テクノロジーを採用しています。

SRS Circle Surround II™ テクノロジーは、あらゆるステレオまたはモノラル素材を 3ch (ステレオ + サブウーファー) ・4.1ch ・5.1ch ・6.1ch ・7.1ch などのスピーカーシステムで再生するテクノロジーです。CD ・MP3 ・インターネットラジオなどステレオまたはモノラルソースのサウンドの各周波数帯域を各チャンネルへ振り分け、臨場感溢れるサラウンドを堪能できます。

SRS TruSurround™ テクノロジーは、ステレオスピーカーシステムでも体全体を包み込むようなサラウンドサウンドをシミュレートできます。SRS Dialog Clarity™ テクノロジーは、台詞の明瞭感を高めることが可能です。SRS TruBass® テクノロジーは、小型のスピーカーからでも豊かな低音を再生することが可能です。



Control Panel for Windows (OS によっては表示される名称/仕様が異なる場合があります。)

1. **GUI** : Current Set で選択されているスピーカーシステムと SRS の効果を GUI で表示します。
2. **SRS Circle Surround II / SRS TruSurround XT** : Circle Surround II™ または SRS TruSurround XT™ を使用して Sonica Theater を使用する場合には選択して下さい。“Current Set で 2 チャンネル以下” を選択してい

る場合には、SRS TruSurround XT が選択可能となり、“Current Set で 2 チャンネル以上” を選択している場合には、SRS Circle Surround II が選択可能となります。

※ SRS Circle Surround II ™ は、48kHz 以上のサンプリングレートではご利用頂けません。

※ Windows Media 9 や DVD ソフトウェア等のデコードによるアナログマルチチャンネル出力を使用する場合には、“Circle Surround II” または “SRS TruSurround XT” のチェックを外して下さい。また、DVD ソフトウェアにてエンコードされた信号をデジタル出力する場合には、SRS テクノロジーを使用できません。

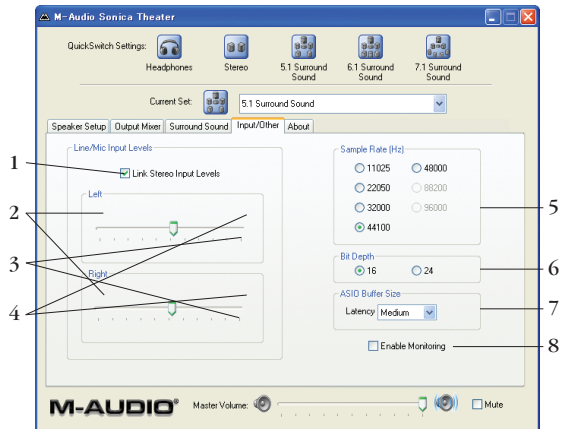
3. **SRS Mode** : SRS Circle Surround II ™ または SRS TruSurround XT ™ モードが有効になっている場合、音像 (Cinema・Music・Mono) を選択できます。映画やテレビを見る場合には “Cinema”、MP3 や CD などステレオソースの場合には “Music”、古い映画やインターネットラジオのようなモノラルソースの場合には、“Mono” を選択して下さい。

4. **SRS Dialog Clarity** : チェックを入れることにより、SRS Dialog Clarity ™ テクノロジーが有効になり、フェーダーをドラッグして台詞の明瞭感を高めることが可能です。

5. **SRS TruBass** : チェックを入れることにより、SRS TruBass® テクノロジーが有効になり、フェーダーをドラッグしてスピーカーの最低再生可能周波数 (f0) 以下の低音を再生することが可能です。

Input/Other

Surround Sound は、Sonica Theater のライン入力レベル / 解像度のコントロールやサンプリングレートを表示します。



Control Panel for Windows (OS によっては表示される名称 / 仕様が異なる場合があります。)

1. **Link Stereo Input Levels** : チェックを入れることにより、左右 2 チャンネルの “Level Fader” をベアにして片方のハンドルをスライドさせると左右 2 チャンネルとも同時にコントロールすることが可能になります。
2. **Peak Meters** : オーディオ信号を “フルスケール (0dB) に対しての dB” 表示します。メーターは 3 セクションに分かれており、-3dB ~ 0dB (赤色) ではクリップが発生する可能性がありますので注意が必要です。
3. **Level Fader** : フェーダーをドラッグして入力レベルのコントロールを行います。
4. **Clip** : 過大な入力レベルによってクリップが発生した場合に、赤色で点灯します。
5. **Sample Rate** : Sonica Theater が現在動作しているサンプリングレートを表示します。USB 1.1 のバンド幅は、送受信合わせて “16Bit 48kHz の場合 8 チャンネル” が上限になります。従って、Current Set で選択されているスピーカーシステムのチャンネル数と解像度によって、使用するサンプリングレートが切り替わります。USB 1.1 の制限に関しては、Chapter 2: インストールと設定を参照して下さい。

6. Bit Depth : Sonica Theater の解像度を選択します。

USB 1.1 のバンド幅は、送受信合わせて “16Bit 48kHz の場合 8 チャンネル” “24Bit 48kHz の場合 6 チャンネル” が上限になります。従って、Current Set で選択されているスピーカーシステムのチャンネル数とサンプリングレートによって、使用する解像度が切り替ります。USB 1.1 の制限に関しては、Chapter 2:インストールと設定を参照して下さい。

7. ASIO Buffer Size : ASIO Buffer Size は、ASIO 対応のアプリケーションで Sonica Theater を使用する場合に、システムメモリのオーディオバッファ使用率を設定します。オーディオバッファの値を小さくすると、レイテンシー（発音の遅れ）を小さくすることができ、ソフトウェアインストルメントのリアルタイムプレイやリアルタイムエディティングに有効ですが、極端に値を小さくするとオーディオストリームエラーを起し、ポップやクリックノイズが発生する場合があります。また、オーディオバッファを大きくする程レイテンシー（発音の遅れ）が大きくなりますが、オーディオストリームエラーが発生せず音質も向上します。

※ Mac OS X 環境では、ASIO ドライバは必要ありません。また、Buffer Size は個々のオーディオアプリケーションにて値をコントロールするようになっておりますので、Mac OS X 環境のコントロールパネル・ソフトウェアには、“Buffer Size” は備わっていません。

8. Enable Monitoring : 入力モニタリングを行うには、チェックを入れます。“Enable Monitoring” にチェックが入っている状態では、サンプリングレートまたは解像度の変更はできません。

About

About では、Sonica Theater のデバイスドライバとコントロールパネル・ソフトウェアのバージョンを表示します。



Chapter 4:

FAQ

ここでは、Sonica Theater についてお問い合わせを頂いている一般的な問題点と回避方法をご紹介します。

Macintosh

Sonica Theater が Mac OS 9.x に認識されない：

- ご利用になっているデバイスドライバが、ご利用になっているオペレーティングシステムに対応しているか確認して下さい。
- Sonica Theater がオンボードの USB コネクタに接続されているか確認して下さい。
- P-RAM クリアを行って下さい。P-RAM クリアの操作方法は、一旦 Macintosh の電源を切り数十秒ほどしてから Macintosh を起動させた直後に、キーボードの “Command”、“option”、“P”、“R” の 4 つのキーを同時に押すことで再起動し P-RAM クリアは完了します。
- 接続されている周辺機器（USB 機器・PCI 拡張カード・アクセラレータカード等）を一旦外してから認識されるか試して下さい。外すことで問題が改善される場合には、PCI バス / アクセラレータカード等のシステムチェックのタイミングが同じになる場合に読み込まれない場合があります。この場合には、PCI 拡張カード・アクセラレータカード等のインストールされている PCI スロットを他の場所へ変える / 再度差し直す等を行って下さい。
- Macintosh のファームウェアを最新の状態（ファームウェアのアップデート）にして下さい。

ドライバがインストールされているのにプレイバックができない場合：

- Sonica Theater と接続しているスピーカーシステムが正常か確認し、接続ケーブルが適切な製品か確認して下さい。デジタル接続している場合には、インピーダンスが適合しているデジタルケーブルを使用しているか確認して下さい。
- オーディオアプリケーションの出力ポートに Sonica Theater が選ばれているか確認して下さい。また、マルチチャンネル対応のアプリケーションでは、スピーカーシステムに接続されているポートを出力ポートとして設定しているか確認して下さい。
- コントロールパネル・ソフトウェアの Mute・Solo のチェックが外れているか確認して下さい。
- 一部のソフトウェアインストールメントやオーディオアプリケーションでは、小さいオーディオバッファに対応していない場合があります。Sonica Theater またはオーディオアプリケーションのオーディオバッファサイズを大きな値に変更して下さい。

ドライバがインストールされているのにレコーディングができない場合：

- オーディオアプリケーションの入力ポートに Sonica Theater が選ばれているか確認して下さい。

ドライバが正しくインストールされているのに録音や再生にノイズが混じる場合：

- オーディオアプリケーションの CPU/HD パフォーマンスメーターを確認して、オーディオトラック数を減らすか使用中のエフェクトプラグイン等を減らして下さい。

- 一部のソフトウェアインストールメントやオーディオアプリケーションでは、小さいオーディオバッファーに対応していない場合があります。Sonica Theater またはオーディオアプリケーションのオーディオバッファーサイズを大きな値に変更して下さい。
- デバイスマネージャーで Sonica Theater が使用停止になっていないか確認して下さい。

ドライバがインストールされているのにプレイバックができない場合：

- Sonica Theater と接続しているスピーカーシステムが正常か確認し、接続ケーブルが適切な製品か確認して下さい。デジタル接続している場合には、インピーダンスが適合しているデジタルケーブルを使用しているか確認して下さい。
- オーディオアプリケーションの出力ポートに Sonica Theater が選ばれているか確認して下さい。また、マルチチャンネル対応のアプリケーションでは、スピーカーシステムに接続されているポートを出力ポートとして設定しているか確認して下さい。
- オーディオ CD を Sonica Theater でプレイバックさせる場合には、マイコンピュータ > コントロールパネル > マルチメディア > “音楽 CD” で、「この CD-ROM でデジタル音楽 CD を使用可能にする」チェックボックスをチェックしてください。ここがグレーになっていてチェックが入れない場合は、Sonica Theater でオーディオ CD を再生することはできません。
- MME で使用する場合には、マイコンピュータ | コントロールパネル | マルチメディア (サウンドとマルチメディア) | オーディオの優先するデバイスに “Sonica Theater” が選択されているか確認して下さい。“Sonica Theater” が選択出来ない場合には、Sonica Theater がコンピュータへ接続されていない・Sonica Theater のドライバがインストールされていないことが要因です。
- コントロールパネル・ソフトウェアの Mute・Solo のチェックが外れているか確認して下さい。
- 一部のソフトウェアインストールメントやオーディオアプリケーションでは、小さいオーディオバッファーに対応していない場合があります。Sonica Theater またはオーディオアプリケーションのオーディオバッファーサイズを大きな値に変更して下さい。

Windows

Sonica Theater が Windows に認識されない：

- ご利用になっているデバイスドライバが、ご利用になっているオペレーティングシステムに対応しているか確認して下さい。
- Sonica Theater がオンボードの USB コネクタに接続されているか確認して下さい。また、Sonica Theater をインストール後、デバイスマネージャーに“不明なデバイス”または“その他のデバイス”に？マークが表示されている場合には、一旦“削除”してから Windows を再起動してデバイスドライバの再インストールを行って下さい。
- 接続されている周辺機器 (USB 機器・PCI 拡張カード・アクセラレータカード等) を一旦外してから認識されるか試して下さい。外すことで問題が改善される場合には、PCI バス / アクセラレータカード等のシステムチェックのタイミングが同じになる場合に読み込まれない場合があります。この場合には、PCI 拡張カード・アクセラレータカード等のインストールされている PCI スロットを他の場所へ変える / 再度差し直す等を行って下さい。

ドライバがインストールされているのにレコーディングができない場合：

- オーディオアプリケーションの入力ポートに Sonica Theater が選ばれているか確認して下さい。
- MME で使用する場合には、マイコンピュータ | コントロールパネル | マルチメディア (サウンドとマルチメディア) | オーディオの優先するデバイスに “Sonica Theater” が選択されているか確認して下さい。

ドライバが正しくインストールされているのに録音や再生にノイズが混じる場合：

- オーディオアプリケーションの CPU/HD パフォーマンスメーターを確認して、オーディオトラック数を減らすか使用中のエフェクトプラグイン等を減らして下さい。
- 一部のソフトウェアインストールメントやオーディオアプリケーションでは、小さいオーディオバッファーに対応していない場合があります。Sonica Theater またはオーディオアプリケーションのオーディオバッファサイズを大きな値に変更して下さい。
- MIDIMAN/M-AUDIO 以外の一部の USB 機器では、Sonica Theater へノイズを乗せてしまう場合があります。この場合は、USB 機器のドライバを最新のバージョンへアップデートして下さい。
- ハードディスクのデフラグを行って下さい。
- ディスプレイのカラー階調を低く設定して頂くと改善される場合があります。
- 複数のアプリケーションで Sonica Theater を同時使用する場合にノイズが乗る場合があります。この場合は、常時使用しないアプリケーションを一旦終了して下さい。

Technical Specs

アナログオーディオ：

- 1/8 ミニライン入力
 - ダイナミックレンジ：98dB (typical,a-weighted)
 - S/N 比：98dB (typical,a-weighted)
 - THD：-87dB (typical)
 - コネクター：1/8 ミニコネクター
-
- 1/8 ミニライン出力
 - アナログ出力感度 (最大)：1Vrms (0dBV)
 - ダイナミックレンジ：101dB (typical,a-weighted)
 - S/N 比：101dB (typical,a-weighted)
 - THD：--89dB (typical)
 - コネクター：1/8 ミニコネクター

デジタルオーディオ：

- デジタル出力サンプリングレート：11.025kHz・22.050kHz・32kHz・44.1kHz・48kHz・88.2kHz・96kHz
- デジタル出力フォーマット：S/PDIF(Coaxial)0,5V
- コネクター：18 金メッキ RCA ピンジャック

A/D D/A コンバーター：

- 高性能 24bit 96kHz 106dB Codec (AK4529) 搭載

- この Technical Specs は、2003 年 11 月現在のデータです。将来予告なしに変更することがあることをご了承下さい。